

大項目

小項目

第1章 指針策定の目的	1-1 社会的背景(必要性)	協働による取り組みが必要とされている理由 (少子高齢化・人口の減少・生活スタイルの変化・市民ニーズの多様化・地域力の低下・地方分権の進展)
	1-2 協働で目指すもの	総合計画や市民憲章に基づき、最終的にどんな姿であることを目指すのか 市民や企業参画のまちづくり 新しい公共について

～考えるときに～
 基礎自治体としての視点 自治を進める上での自治の保障
 小城市の背景等

第4章 協働を進めるために	4-1 協働のルール	情報の共有化 情報公開(市民に知らせる) 相互の関係 誰がやればうまくいくのか?(地縁・志縁・企業の関係、地域自治)
	4-2 行政の姿勢と役割	情報公開 情報の共有化 行政自身(内部)と協働の相手に対して
	4-3 市民の姿勢と役割	役割を与える 第3章市民及び団体等の現状と課題に対する各々の姿勢と役割 (継続的な組織運営のあり方、財源、評価)

～考えるときに～

職員の意識改革を促すことができるように示す。

第5章 更なる小城市の 未来に向けて	5-1 自治基本条例の制定	地方分権の推進 市民からのまちづくりのルールと 役割 真の住民自治の実現(市民にも有 益である。)

第 章		
第 章		
第 章		
第 章		

資料編

各種計画から見える協働	各課との連携 担当部署の認識
具体的取り組み事例(おぎし協働読本掲載)	手順の具体例(イラスト・マンガ) 気づかせる
指針のダイジェスト版	手順の具体例(イラスト・マンガ)

